

## 8-4-1 統括技術委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 委員会の開催

偶数月に6回開催した。開催しない奇数月もメール等を活用し、協議と情報交換を実施した（各委員会月次報告、技術部会・常任理事会の審議・指示事項の周知・対応等）。

#### (2) 未来塾検討テーマへの対応

##### a) プロポーザル拡大に向けた対応

プロポーザル拡大に向けた方向性（チェックリストの活用、地域コンサルへの拡大方策）を本省に提案し、斜め象限を補完するチェックリストを運用した場合、特に交通基盤分野（道路・橋梁）において、プロポーザル方式に代わる案件が相当数あることを報告した。

また、「施工計画」における発注者側からの要望事項に対する歩掛乖離に関する問題解消策として、施工条件が厳しい総合評価業務はチェックリストを用いてプロポーザル方式に変更することで、技術力に応じ、品質の向上に資することを提案した。

##### b) 施工計画・仮設設計における課題対応

全国の不利益事象が生じたときの発注者との協議状況を再ヒアリングし、事例毎に共通する課題、留意事項を抽出した。問題の本質は、受発注者間のコミュニケーションが正しくできていないことであるとの認識のもと、発注者側では特記仕様書での条件明示のあり方等検討していく一方、協会側では、個別業務で受注者が発注者に対し質疑、要望することを促し、モニタリングしていく。今後も、不利益事象の発生防止に向けて協議していく。

##### c) 施工条件明示チェックシートの運用

発注者、設計者、施工者の役割分担を明確化し、事業の円滑化を促進することを活用目的とする。関東地整と建コン協関東支部との協議状況も踏まえ、令和4年度に目的や内容、実施方針を整理し、令和5年度試行開始を目指す。

#### (3) テーマ設定型技術公募への対応

新技術活用促進を目的としたNETIS活用方式の1つである「テーマ設計型（技術公募）」に対し、昨年度の内容を見直し、選別した。

#### (4) 国総研・土研との意見交換会の開催

統括技術委員会（専門委員会含む）の活動実績や今後の共同研究に関する具体案等の話題提供を行った。土研・国総研それぞれとDX推進の取組について情報交換を行い、新技術活用やBIM/CIM納品化の検討を行った。

#### (5) 共通仕様書、標準歩掛の改訂要望の提出

改訂の理由（優先順位だけではなく、なぜ必要なのか、全国的に大きな影響があるのか、乖離による不調等）を記載し提出した。今後も戦略を踏まえて対応していく。

#### (6) 統括技術委員会の横断的活動（主要事項）

a) 国総研研究評価委員として、国総研研究に対する意見具申を行った。（年2回開催）

b) 生産性向上WG、維持管理対策WG、業務体系WG、公益活動WG、業務研究発表会WG、新しい生活様式の道路空間WGの活動を実施した。

c) 「業務研究発表会」の企画・運営に参画し、令和3年9月14日にオンライン開催にて実施した。（論文応募数105編）

d) 雑誌「土木施工」の編集委員への参加

### 2. 次年度の活動について

- 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動
- 分野横断的な諸テーマの検討
- 技術部会からの指示事項の検討
- 3技術委員会からの要望検討、上位機関への上程
- 業務研究発表会開催と他行事の対応・支援
- NETIS関連の対応
- RCCM 自主学習・教材の作成・更新
- 国交省等調査への対応
- 土研、国総研との技術交流
- 白書・対外活動への支援、他

（統括技術委員会委員長 菅原 正道）